

(第2回せたがや通所連絡会)

平成20年9月18日

第1回アンケート結果資料

回収 38事業所 回収率 54%

「もし今、直下型の大地震が起こったら！」アンケートから見えるもの

1. 避難訓練について

ほとんどの事業所が避難訓練を行っている。

回数的に一番多いのは 2回/年 二番目が 1回/年

2. 避難場所について

ほとんどの事業所が場所はわかっているが、場所までの誘導をほとんどしていない。

誘導をしている事業は 2事業所のみ

3. 家族との連絡方法

打ち合わせが出来ている 39%

出来ていない 61% (3分の2が出来ていない)

4. 一人暮らしの利用者に対する考え方

対策を考えている 34%

考えていない 66% (検討中 1事業所)

* (1) 対策(内容)を考えている (P2 記載)

5. 上記4.の「考えていない事業所」の内、 今後何か考える必要あり

37%

特に考えない

63%

<大災害時、「通所事業所の役割」として>

身体状況により、避難場所で過ごせない人のために、事業所を開放する

する (はい) 63%

しない (いいえ) 11%

わからない 26%

* (2) しない/わからない 回答の理由 (P2 記載)

<夜中に大地震が起こった場合>

(一人暮らし、家族に世話の出来る人がいない)

避難場所で過ごせない人、又困っている人のために、宿泊する場がある

はい 75%

いいえ 22%

無回答 3% (1事業所)

上記「はい」と答えた事業所に対して、介護スタッフを何人が用意することを考えている

はい 55%

いいえ 17%

無回答 28%

(検討中 5事業所/マニュアル作成中 2事業所)

人件費について (介護スタッフ)

ボランティア 23%

事業所負担 14%

区負担 63%

人件費や備蓄品費用を区負担の場合

協力する 92%

協力できない 4%

無回答 4%

* (3) 協力できない理由 (P2~3 記載)

その他の問題点や意見はアンケート最終ページ参照

* (4) その他の意見 (P3 記載)

*** (1) 「はい」の方は、対策を具体的に記述してください**

- ・預かるより仕方ない。
- ・宿泊できる施設がある。
- ・大地震の場合、そのままお預かりすることになると思います。
- ・事業所として考えているので（職員との話し合いもしている）今後、家族との連絡方法について検討を行う。
- ・震災時には、安全な避難場所で過ごせるよう誘導します。
- ・お迎えに来られるまでに、スタッフが交代で対応する。本部より応援をもらう。
- ・マニュアルを作成している。（5施設）
- ・NTT伝言ダイヤルを使用。また、書面にて配布済み

*** (2) 「いいえ」「わからない」とお答えの方、その理由を記述してください。**

- ・宿泊に必要な物資、調理できる台所、食器類、入浴設備が整っていない。
- ・当デイは小規模型（10人定員）で予防専門で筋トレマシンがあるため、生活するためには非常に狭い上に、お世話するスタッフや物資が少ない為。
- ・宿泊設備、スタッフが共になし。
- ・スペースが狭い。
- ・法人の意思決定で動いているため。
- ・スタッフがいない。寝具が足りない。
- ・その時の状況による。
- ・宿泊に必要な設備が整っていない。マンションの3階のため、避難場所としてあまり相応しくないのでは。
- ・本部がどのように考えているか不明。
- ・宿泊に必要な設備がないため。
- ・場所については確保できるが、物資、特に食事（非常食）が入院患者分としてしか確保していないため。
- ・スタッフ、物資が無い。他の入所者の方（併設入所）の対応で、精一杯かと考えられます。
- ・災害に備えて話し合う機会がないため。
- ・職員の確保が困難。

*** (3) 「協力できない」とお答えの方、その理由、問題点は何ですか？具体的なお答え下さい。**

- ・受け入れ人数に限界がある。
- ・費用は次の問題として、併設の入所（156床）のマンパワーの確保も心配している状況で、難しいと考えています。
- ・宿泊設備が無い。職員体制、調理等の設備が無い。
- ・当デイは小規模のため、スタッフが少なく又、保育園児の母親、小学校一年生の母親であるため、緊急時にはスタッフが自分の家族を見に帰ってしまい、人手不足。

- ・狭い。休養室が地下の為。
- ・ビルの3階のため、緊急時という状況下で過ごしていただく上で、宿泊等に適しているのか検討していないため。

*** (4) その他、災害に備えてのご意見、ありましたら記入してください。**

- ・できる限りのことはしたいが、入所者もあり、被害状況(インフラ・スタッフの確保等)によるので、事前にできる・できないと判断することが非常に難しい。
- ・第一次避難所は施設からは遠く、車を使えない状況等を考えると、現実的ではありません。現実的な場所をお考え頂きたいと思います。
- ・地震用のマニュアルを検討中ですが、見本があれば参考にしたい。
- ・震災の規模や時間帯など、介護スタッフの招集が無理な時、施設の損壊時などの対応、対策が必要と考えます。
- ・震災の規模により、スタッフの招集が無理な場合、施設自体が損壊した場合など、様々なケースが考えられます。
- ・ベット数は、3～4台しかなく、多数の収容は難しいと思います。
- ・行政が相当の覚悟をもって対応する必要あり。介護業界は経済的に相当ひどい状況です。東京は近年大きな災害にあってません。東京だけそんなはずはないと思い、常々考えています。
- ・大災害の際は、利用者の安全と安心の確保に努める用意はあるが、遠方から通勤している職員もあり、職員自身及びその家族の安全が確認できるという前提とのジレンマに陥るかもしれません
- ・当施設は特養と併設しており、地域の高齢者対応については、応援協定を結んでいる。
- ・私共、災害に備えた避難訓練を実施しております。
- ・地域の中心的な役割を果たし、皆様の安全を守っていきます。
- ・入所施設では3日分の食料などの備えとしていますが、通所の場合はそこまで予算が取れないので、実際の対応は困難。特にライフラインがストップした場合、職員確保が難しい。

以上